

18. 講演発表、論文投稿等の経緯

研究発表、論文投稿等の経緯

西暦	和暦	大会(総会)会場	会長	大会(総会)参加登録費	会員外	講演整理費(登録料)	JCST用データベース作成	講演論文集の形式	講演者の会員資格	機械学会論文集との関係	プライオリティ	備考	ホームページ
1945	昭和20	本会事務所	松本 容吉										
1946	昭和21	帝國交通協会	野口 尚一										
1947	昭和22	東京帝国大学	山ノ内 弘							部類別掲載			
1948	昭和23	東京大学	辻 二郎										
1949	昭和24	東京大学	中西 不二夫										
1950	昭和25	東京大学	海老原 敬吉							部類別の発行一時中止			
1951	昭和26	東京大学	兼重 寛九郎							論文集月刊			
1952	昭和27	日本大学・駿河台	佐々木 重雄	無料				前刷集(室毎別冊、謄写版印刷)	会員	4部類別を発行			
1953	昭和28	早稲田大学・共通教室他	西原 利夫										
1954	昭和29	東京大学	大越 諄					前刷集(室毎別冊、オフセット印刷)					
1955	昭和30	慶應義塾大学・三田	田中 敬吉										
1956	昭和31	早稲田大学・21号館他	池田 正二										
1957	昭和32	慶應義塾大学・三田	橋本 宇一										
1958	昭和33	早稲田大学・21号館他	丹羽 周夫					講演前刷(論文抜刷、室毎前刷集)		普通講演に論文講演を追加		Bulletin発行	
1959	昭和34	明治大学・駿河台	伊原 貞敏					講演前刷(論文抜刷、部門毎前刷集)					
1960	昭和35	早稲田大学・21号館他	島 秀雄							4部類から3部類		特許庁より特許法30条の指定団体	
1961	昭和36	慶應義塾大学・三田	川田 正秋										
1962	昭和37	中央大学・駿河台	大井上 博										
1963	昭和38	東京電機大学	中田 孝										
1964	昭和39	上智大学	松野武一、宮地健次郎										
1965	昭和40	早稲田大学	西脇 仁一										
1966	昭和41	東京大学	長尾 不二夫										
1967	昭和42	慶應義塾大学・三田	永野 治										
1968	昭和43	日本大学理工部	吉沢 武男					講演論文集(論文抜刷、部類毎)		論文集複数校間、論文投稿は講演後2年以内		第2出版運営委員会発足	
1969	昭和44	武蔵工業大学	谷下 市松										
1970	昭和45	明星大学	竹中 規雄										
1971	昭和46	千葉工業大学	杉本 正雄										
1972	昭和47	慶應義塾大学・日吉	谷口 修										
1973	昭和48	東京工業大学	藤本 俊三		2000	500							
1974	昭和49	東京電機大学	輪戸口 英善							論文講演(講演前に校閲)		論文集別刷代(掲載料)徴収	
1975	昭和50	東京大学	曾田 範宗	1000	3000			講演論文集(部類毎)					
1976	昭和51	上智大学	直理 厚							Bulletin直接投稿			
1977	昭和52	慶應義塾大学・日吉	橋本 力							図面英文化(著者原図使用)			
1978	昭和53	関東学院大学	白倉 昌明										
1979	昭和54	日本大学理工部	今井 兼一郎							論文集3分冊(年間36冊)発行			
1980	昭和55	工学院大学	藤井 澄二							論文集のS化、キーワードの付与			
1981	昭和56	電気通信大学	千々岩 健児										
1982	昭和57	千葉工業大学	一色 尚次			1000				研究随想、展望等の欄設置		会誌・論文集索引集発行中止	
1983	昭和58	神奈川大学	矢野 毅										
1984	昭和59	早稲田大学	石原 智男										
1985	昭和60	慶應義塾大学・日吉	甲藤 好郎					講演概要集、論文抜刷		新方式講演会(論文A、B、要旨)	原稿受付日	要事前査読(要旨は不要)	
1986	昭和61	東京工業大学	佐藤 豪							著作権の本来帰属(1985/12-)、それまでは、著作権は著者に帰属し、編集著作権だけが本会帰属。		論文集別刷り代(5~9万円)	
1987	昭和62	明治大学・生田	國枝 正春			540				INT.Journalの発行(旧Bulletinより誌名変更)		論文集の定価固定	
1988	昭和63	中央大学	堀 幸夫							論文受付コンピュータ化			
1989	平成1	東京大学	金井 務							論文投稿と講演発表切り離し		メカライフ発行	
1990	平成2	上智大学	相川 賢太郎	2000	4000	無料		講演論文集	会員外可	論文投稿と講演発表切り離し	発表日	論文集のCD-ROM発行	
1991	平成3	武蔵工業大学	佐藤 文夫							新編集方針受付開始、論文集特集号発行		論文集のCD-ROM発行	
1992	平成4	横浜国立大学	大橋 秀雄			620						論文集のCD-ROM発行	
1993	平成5	東京都立大学	土屋 喜一	3000	5000							論文校閲者への感謝状	
1994	平成6	工学院大学	平田 賢									論文投稿数2000件突破	
1995	平成7	早稲田大学	田中 實									投稿料に消費税を加算、INT.Journal科研費補助金交付	
1996	平成8	日本大学	阿部 博之									メカライフの中止、会誌統合	本会HP開設
1997	平成9	青山学院大学	岡村 弘之					講演論文集(A4化)、CDROM、原稿用紙A4任意白紙		校閲結果をホームページに記載、校閲委員地区別会議中止		会誌A4判化(会員入会情報等の会誌掲載)	
1998	平成10	東京工業大学	和田 明広										
1999	平成11	慶應義塾大学・三田	井口 雅一	4000	6000								
2000	平成12	名城大学	棚澤 一郎	5000	7000					テンプレートファイルの公開			年次大会・総会分離、全国廃止
2001	平成13	福井大学、福井工業大学	小林 敏雄	5000	7000					論文集カタログ別号の廃止			国立情報学研究所で会誌、論文集、JournalのDB化運用許可
2002	平成14	東京大学	伊東 誼	6000	8000					執筆要綱のWEB移行(執筆要綱改訂第9版迄で出版物の中止)、それまで原稿用紙販売(B4版2160字、1冊700円+送料300円、5冊2000円+送料千円)			会誌、論文集、Journalの保存図書館へ寄贈し一般公開
2003	平成15	徳島大学	田中 重穂	5000(6000)	8000(10000)					HPで耳寄り技術情報			論文集発行形態検討委員会設置
2004	平成16	北海道大学	長島 昭	5000(6000)	8000(10000)					日本機械学会の講演会等における講演申込み等への対応指針			国立情報学研究所で講演論文集のDB化運用許可(但し、有料)、SPA-JAPANに採択、Inter.Journalの電子出版化促進(J-STAGE)
2005	平成17	電気通信大学	田口 裕也	5000(7000)	8000(10000)					2005.4より論文集に「技術論文」新設、2005.12迄に技術報告廃止			SPA-JAPANの支援により本会英文誌投稿・査読の構築
2006	平成18	熊本大学	笠木 伸英	5000(7000)	8000(10000)					部門英文ジャーナル電子媒体発行試行開始(流体工学、熱工学部門)			英文誌科研費補助(1300万円)不採択、電子媒体補助有(650万円)。年次大会理事専任型WP導入(無料)
2007	平成19	関西大学	斉藤 忍	5000(7000)	8000(10000)					2007年1月より部門英文ジャーナル電子媒体へ移行(INT.Journalの廃刊)、会誌印刷会社変更、論文投稿・校閲に関する倫理指針、同指針に違反した場合の調査委員会の発足と罰則規定の申し合わせ、投稿規定・校閲基準等の改訂			組織改革:機構、センター(出版、産官学連携、標準・規格)、110周年(ロードマップ、機械遺産、会誌記念号、ロゴ・キャッチフレーズ)準備、機械の日策定、論文編集委員会から電子メールでのニュース配信
2008	平成20	横浜国立大学	白鳥 正樹	5000(7000)	8000(10000)					部門英文電子ジャーナルの11誌の登載、和文論文集に「ノート」欄を設け企業会員の投稿を促がした。倫理規定を改訂した。			機械遺産認定、技術ロードマップ策定、便覧合本(α、β 編)発行、「創立110周年記念10年のあゆみ」を発刊
2009	平成21	岩手大学	有信 陸弘	5000(7000)	8000(10000)					和文論文集の電子化決定。IT環境改善の中で移行計画の策定			会誌広告取扱いを共栄通信社から中外へ変更。「会員の不正行為の調査・審理に関する規則」、「同会員処分に係る規則」の制定。寄贈単行本等の全てを電気図書館へ移管(金沢工大へ雑誌の寄贈中止、図書館の縮小→特別会館室化)
2010	平成22	名古屋工業大学	松本洋一郎	5000(7000)	8000(10000)					和文論文集の電子化登載開始(2011/1-)、電子出版に伴う執筆要綱の改訂			和文論文集電子化のため米国アリス社「投稿・校閲システム」導入による経費削減。論文校閲者への感謝状贈呈(会誌掲載)中止(1993-2008実施)
2011	平成23	東京工業大学	佐藤 順一	12000(15000)	15000(18000)			DVD-ROM(参加登録料込、全ての講演収録)		和文論文・英文論文サイト統合検討、特別員へ2か月毎に論文登載1頁目を纏めた冊子を寄贈。			東日本大震災により東京電力電気の史料館付置の「電気図書館」休止、広告掲載・登載基準運用内規制定
2012	平成24	金沢大学	金子 成彦	10000(12000)	15000(17000)					和文論文・英文論文サイト「日本機械学会学術誌」に統合決定			講演発表の著作権規定、倫理規定改訂
2013	平成25	岡山大学	矢部 彰	12000(15000)	15000(18000)					和文論文・英文論文サイト「日本機械学会学術誌」移行2014.1-			機械工学便覧DVD版発行(2014.3-)、日本機械学会学術誌投稿規定制定(1.2:投稿者の会員資格を問わない。)
2014	平成26	東京電機大学	久保司郎	12000(15000)	15000(18000)								会誌8月号(機械工学年鑑)をHP会員のページにUPLI会員の閲覧に供す(以降会誌全て会員HPに登載)
2015	平成27	北海道大学	小豆畑茂	14000(17000)	24000(27000)								新学術誌のLETTER誌発行、新学術誌体制となる。
2016	平成28	九州大学	岸本喜久雄	14000(17000)	24000(27000)								著作権規定(2016年3月29日承認)
													研究発表講演会の会員限定化が決定、会費の改定(学生員半額)
													HP、学術誌をリニューアル(2017年1月より)